Hybrid Piano

KHP-100/300用
ピアノ音源ユニット
HT-10

取扱説明書

KORG

エコマーク認定番号
第 11148001 号

ⒿⓃ

安全上のご注意

ご使用になる前に必ずお読みください

ここに記載した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、あなたや他の方々への危害や損害を未然に防ぐためのものです。注意事項は誤った取り扱いで生じる危害や損害の大きさ、または切迫の程度によって、内容を「警告」、「注意」の2つに分けています。これらは、あなたや他の方々の安全や機器の保全に関わる重要な内容ですので、よく理解した上で必ずお守りください。

火災・感電・人身障害の危険を防止するには

図記号の例

⚠	△記号は、注意(危険、警告を含む)を示しています。記号の中には、具体的な注意内容が描かれています。左の図は「一般的な注意、警告、危険」を表しています。
	⃠記号は、禁止(してはいけないこと)を示しています。記号の中には、具体的な注意内容が描かれることがあります。左の図は「分解禁止」を表しています。
	●記号は、強制(必ず行うこと)を示しています。記号の中には、具体的な注意内容が描かれることがあります。左の図は「電源プラグをコンセントから抜くこと」を表しています。

以下の指示を守ってください

⚠警告

この注意事項を無視した取り扱いをすると、
死亡や重傷を負う可能性が予想されます

- ACアダプターの電源コードのプラグは、必ずAC100Vの電源コンセントに差し込む。
- ACアダプターの電源コードのプラグにほこりが付着している場合は、ほこりを拭き取る。
  感電やショートの恐れがあります。
- 本製品はコンセントの近くに設置し、電源コードのプラグへ容易に手が届くようにする。
- 次のような場合には、直ちに電源を切って電源コードのプラグをコンセントから抜く。
  ○ ACアダプター、電源コードやプラグが破損したとき
  ○ 異物が内部に入ったとき
  ○ 製品に異常や故障が生じたとき
  修理が必要なときは、(株)消音ピアノサービスへ依頼してください。
- 本製品を分解したり改造したりしない。
- 修理、部品の交換などで、取扱説明書に書かれている以外のことは絶対にしない。
- ACアダプターのコードを無理に曲げたり、発熱する機器に近づけない。また、ACアダプターのコードの上に重いものをのせない。
  コードが破損し、感電や火災の原因になります。
- 大音量や不快な程度の音量で長時間使用しない。
  大音量で長時間使用すると、難聴になる可能性があります。万一、聴力低下や耳鳴りを感じたら、専門の医師に相談してください。
- 本製品に異物(燃えやすいもの、硬貨、針金など)を入れない。
- 温度が極端に高い場所(直射日光の当たる場所、暖房機器の近く、発熱する機器の上など)で使用や保管はしない。
- 振動の多い場所で使用や保管はしない。
- ホコリの多い場所で使用や保管はしない。
- 風呂場、シャワー室で使用や保管はしない。
- 雨天時の野外のように、湿気の多い場所や水滴のかかる場所で、使用や保管はしない。
- 本製品に液体をこぼさない。
- 濡れた手で本製品を使用しない。

⚠注意

この注意事項を無視した取り扱いをすると、傷害を負う可能性または物理的損害が発生する可能性があります

- 正常な通気が妨げられない所に設置して使用する。
- ラジオ、テレビ、電子機器などから十分に離して使用する。
  ラジオやテレビ等に接近して使用すると、本製品が雑音を受けて誤動作する場合があります。また、ラジオ、テレビ等に雑音が入ることがあります。本製品をテレビ等の横に設置すると、本製品の磁場によってテレビ等の故障の原因になることがあります。
- 外装のお手入れは、乾いた柔らかい布を使って軽く拭く。
- 電源コードをコンセントから抜き差しするときは、必ずプラグを持つ。
- 長時間使用しないときは、電源コードをコンセントから抜く。
- 付属のACアダプターや電源コードは他の電気機器で使用しない。
  付属のACアダプターや電源コードは本製品専用です。他の機器では使用できません。
- 他の電気機器の電源コードと一緒にタコ足配線をしない。
  本製品の定格消費電力に合ったコンセントに接続してください。
- スイッチやツマミなどに必要以上の力を加えない。
  故障の原因になります。
- 外装のお手入れに、ベンジンやシンナー系の液体、コンパウンド質、強燃性のポリッシャーは使用しない。
- 不安定な場所に置かない。
  本製品が落下してお客様がけがをしたり、本製品が破損する恐れがあります。
- 本製品の上に乗ったり、重いものをのせたりしない。
  本製品が落下または損傷してお客様がけがをしたり、本製品が破損する恐れがあります。

演奏するための準備

電源の接続

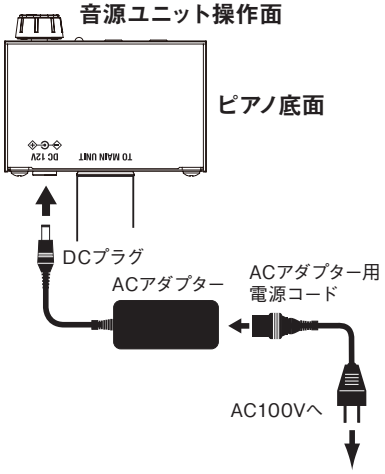
1. 本機の電源がオフになっていることを確認します。
2. 付属のACアダプターにACアダプター用電源コードを取付け、DCプラグを裏面のDC12V端子に接続します(図1)。

   ACアダプターは必ず付属のものをお使いください。他のACアダプターを使用した場合、故障などの原因となります。

3. コンセントにACアダプター用電源コードを接続します。

   電源は必ずAC100Vを使用してください。

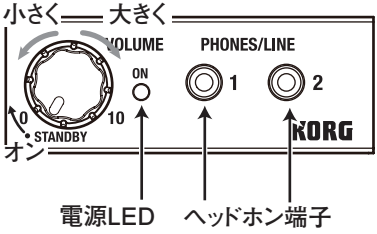
図1



電源をオンにする

[VOLUME]ツマミを右に回してオンにします。
電源LEDが点灯します(図2)。
オフにするときは、[VOLUME]ツマミを"STANDBY"の位置まで左に回してください。
電源LEDが消灯します。
オン、オフの切り替え時には「カチッ」と音がします。

図2



音量を調整する

[VOLUME]ツマミを回して音量を調整します(図2)。
ヘッドホン端子から出力される音量をコントロールします。
音量を小さくするときは左側へ、大きくするときは右側へツマミを回します。

アコースティック・ピアノの音を消すときは

図3のようにピアノ底面の消音ユニットのレバーを手前に引き、下げてロックします。
レバーを元に戻すと、通常のアコースティック・ピアノの演奏ができます。

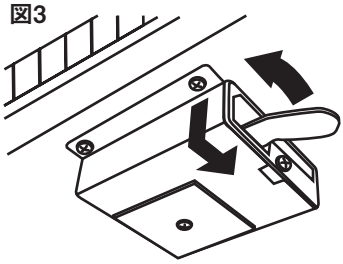


図3

消音していても和音を強く弾いた場合は、アコースティック・ピアノの音が漏れることがあります。

演奏中にこのレバーを操作しないでください。

ヘッドホンを使うときは

音源ユニットの前面にあるヘッドホン端子に、ステレオ・ヘッドホンのプラグ(ミニ・プラグ)を差し込みます(図2)。
ヘッドホン端子は2つありますので、2人で演奏を楽しむことができます。

ヘッドホンを使用する際は、耳の保護のために大きな音量で長い時間聴かないでください。

オーディオ機器と接続するときは

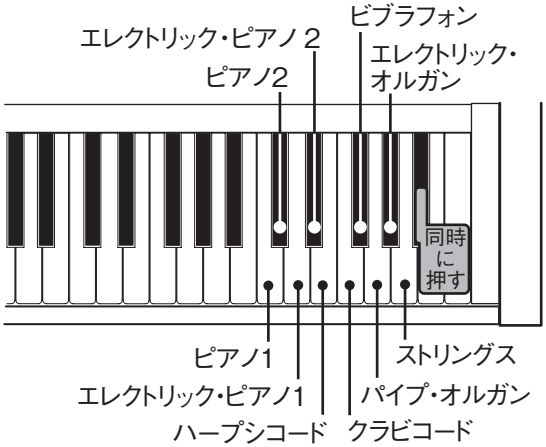
本機のヘッドホン端子(PHONES/LINE)は、オーディオ機器やアンプ付スピーカーを接続する、ライン・アウト端子として使用できます。接続する機器に合わせて、市販の接続コードを使って接続してください。

接続するときは、本機や接続する機器の電源をオフにした状態で行ってください。電源をオンにしたまま接続すると、本機や接続した機器等を破損したり、誤動作の原因となる場合があります。

音色を選ぶ

音色は10種類内蔵しています。
鍵盤の右端のA♯7、B7、C8を同時に押しながら、C7からA7のいずれかの鍵盤を押してください。押した鍵盤によって下記の音色にかわります。

電源をオンにしたときは、初期設定の音色(Piano 1)が選ばれます。



音色リスト

ピアノ1(C7)	： 深みと艶があり、華やかに響くグランド・ピアノの音
ピアノ2(C♯7)	： クリアで明るい感じのグランド・ピアノの音
エレクトリック・ピアノ1(D7)	：軽やかで透明感のあるエレクトリック・ピアノの音
エレクトリック・ピアノ2(D♯7)	：アタック感があって切れのよいエレクトリック・ピアノの音
ハープシコード(E7)	：クラッシックな趣のある繊細なハープシコードの音
クラビコード(F7)	： 独特な響きと表現力のある電子クラビコードの音
ビブラフォン(F♯7)	： まろやかなビブラフォンの音
パイプ・オルガン(G7)	：荘厳なパイプ・オルガンの音
エレクトリック・オルガン(G♯7)	： ファンキーなエレクトリック・オルガンの音
ストリングス(A7)	： バイオリンなどの弦楽器によるストリングス・アンサンブルの音

ペダルを使う

本機の音色にダンパー、ソフトの2種類のペダルを使うことができます。アコースティック・ピアノ本体のペダルを使って、演奏をより効果的に表現することができます。

ダンパー・ペダル

ペダルを踏んでいる間は音が長く伸び、余韻のある豊かな響きになります。ペダルを踏み込む深さでダンパーのかかり具合を変化させることができます(ハーフ・ペダル効果)。

ソフト・ペダル

ペダルを踏んでいる間は、音が柔らかくおとなしい感じになります。ペダルを踏み込む深さで音のやわらかさを変化させることができます(ハーフ・ペダル効果)。

ハーフ・ペダル効果はピアノ1、2に対応します。

いろいろな機能

本機には音色をかえたり、ペダルを使うこと以外でも、鍵盤の右端のA♯7、B7、C8を同時に押しながら、機能が割り当てられた鍵盤を押すと各設定ができます。

A♯7、B7、C8を同時に押しているときは演奏しないでください。予期せぬ設定になることがあります。

機能確認音について

鍵盤の右端のA♯7、B7、C8を同時に押したときに、各種設定が可能になったことを知らせたり、各種設定の鍵盤を押して設定完了を知らせる確認音が出ます。
この確認音はオフにすることができます。鍵盤の右端のA♯7、B7、C8を同時に押しながら、A♯0を押すとオフに、B0を押すとオンになります。

電源をオンにしたとき(初期設定)は確認音が出る設定になります。

エフェクト(リバーブとコーラス)

音色に残響と深みを加えるリバーブ・エフェクトや、音色に広がりを加えるコーラス・エフェクトを使用することができます。

- ○ リバーブ・エフェクトは、鍵盤の右端のA♯7、B7、C8を同時に押しながら、A5を押すとオンに、G♯5を押すとオフになります。
- ○ コーラス・エフェクトは、鍵盤の右端のA♯7、B7、C8を同時に押しながら、B5を押すとオンに、A♯5を押すとオフになります。

エフェクトは各音色に設定できます。

電源をオンにしたとき(初期設定)は、各音色での最適な設定になります。

トランスポーズ機能(移調)

黒鍵を多く押さえるような弾きにくい曲や、他の楽器や歌に演奏とキー(調)が合わせられないときなどがあります。このときキーを変える(移調する)ことによって、黒鍵をあまり使わない指使いで演奏したり、覚えたそのままの指使いで、他の楽器や歌に演奏を合わせることができます。これをトランスポーズ機能といいます。11半音の範囲でずらすことができます。

○ 鍵盤の右端のA♯7、B7、C8を同時に押しながら、F♯2からB3、C♯3からF3のいずれかの鍵盤を押すと、キーに合わせてトランスポーズします。

弾いた鍵盤より低い音、たとえば、C3の位置でA2(−3半音)の高さの音を出すには、鍵盤の右端のA♯7、B7、C8を同時に押しながらA2を押します。

弾いた鍵盤より高い音、たとえば、C3の位置でD♯3(+3半音)の高さの音を出すには、鍵盤の右端のA♯7、B7、C8を同時に押しながらD♯3を押します。

鍵盤の右端のA♯7、B7、C8を同時に押しながら、C3を押すとトランスポーズなし(±0)の設定になります。

電源をオンにしたとき(初期設定)はトランスポーズなしです。

ピッチ・コントロール機能(チューニング)

ピッチ(音の高さ)の微調整を行ないます。他の楽器と合奏をするときなどに、楽器間の微妙なピッチのずれを調整します。
E5、F5の鍵盤でピッチを427.5から452.5Hz(ヘルツ)で0.5Hzごとに設定します。

○ 鍵盤の右端のA♯7、B7、C8を同時に押しながら、E5を押すたびに0.5Hzピッチが下がり、F5を押すたびに0.5Hzピッチが上がります。

○ 鍵盤の右端のA♯7、B7、C8を同時に押しながら、E5とF5を同時に押すと440Hzに戻ります。

電源をオンにしたとき(初期設定)は440Hz(A4)です。ただし、本機の取付時にチューニングの初期設定を変更した場合は、取付認定技術者が設定した値(441、442、443、444、445Hzのいずれか)になります。

デモ曲を聴く

本機には10種類の音色を使った音色デモが10曲入っています。
デモ曲を聴いて、豊かな音色とその表現力を確認してください。
鍵盤の右端のA♯7、B7、C8を同時に押しながら、C6からA6のいずれかの鍵盤を押してください。押した鍵盤によって下記のデモ曲の演奏が始まります。

演奏は選んだ曲から順番に止めるまでくり返し演奏します。

演奏を止めるときはA♯7、B7、C8を同時に押してください。

デモ曲リスト

1. Piano 1デモ(C6)	: 幻想即興曲 Op.66 /F.ショパン
2. Piano 2デモ(C♯6)	: アメイジング・グレイス/不詳(編曲N.Nishi)
3. E. Piano 1デモ(D6)	: Ramble /M.Sakaguchi
4. E. Piano 2デモ(D♯6)	: コルグ・オリジナル
5. Harpsiデモ(E6)	: インヴェンション第8番/J.S.バッハ
6. Clavデモ(F6)	: コルグ・オリジナル
7. Vibraphoneデモ(F♯6)	: コルグ・オリジナル
8. P. Organデモ(G6)	: トッカータ　ニ短調/J.S.バッハ
9. E. Organデモ(G♯6)	: コルグ・オリジナル
10. Stringsデモ(A6)	: First Snow /M.Sakaguchi

故障とお思いになる前に

電源が入らない

- ACアダプターのDCプラグを本体のDC12Vに差し込んでいますか？
- ACアダプターの電源コードを適切なコンセントに差し込んでいますか？
- 電源がオンになっていますか？
- それでも電源が入らない場合は、ACアダプターの電源コードをコンセントから抜いて、修理を依頼してください。

音が出ない

- 本機の[VOLUME]ツマミを左側に回しきって(“STANDBY”の手前)いませんか？

音が途切れてしまう

- 本機の音色は、元になる楽器の音をサンプリング(録音)し、分析/加工してつくられています。音色によって1つの鍵盤を押すと、サンプリング・データの1つを鳴らす音色と、2つを鳴らす音色があります。本機では、ほとんどの音色で2つのデータを鳴らします。この場合、ダンパー・ペダルを踏んでいるときも含め、同時に発音できる音数は60音となります。ただし、ピアノ2音色は、最大同時発音数は120音となります。

特定の音域でピアノ音色の音程、音質がおかしい

- 本機のピアノ音色では、ピアノ本体の音をできる限り忠実に再現しようと加工してつくられています。その結果、音域により倍音が強調されて聞こえるなど、音程や音域が異質に感じる場合がありますが、製品の不良ではありません。

特定の鍵盤で音が出ない、大きい、小さい

- キャリブレーションがずれている可能性があります。取付認定技術者、または購入した販売店へ問い合わせてください。
- 消音ユニットは、取付認定技術者によるアコースティック・ピアノの定期的な調律、整調を行わないと、本来の性能が発揮できずに上記のような症状が発生する場合があります。1年に1度の目安で調律、整調を行うことをお薦めします。

ペダルの効きが弱すぎる、強すぎる

- キャリブレーションがずれている可能性があります。取付認定技術者、または購入した販売店へ問い合わせてください。
- 消音ユニットは、取付認定技術者によるアコースティック・ピアノの定期的な調律、整調を行わないと、本来の性能が発揮できずに上記のような症状が発生する場合があります。1年に1度の目安で調律、整調を行うことをお薦めします。

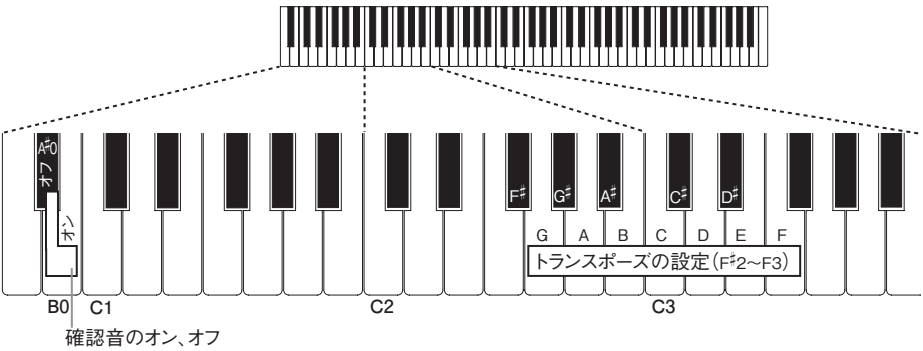
アコースティック・ピアノと音程が違う

- 消音ユニットは、取付認定技術者によるアコースティック・ピアノの定期的な調律、整調を行わないと、本来の性能が発揮できずに上記のような症状が発生する場合があります。1年に1度の目安で調律、整調を行うことをお薦めします。

通常のアコースティック・ピアノの演奏ができない

- 故障等で消音バーが動かなくなってしまった場合、取付認定技術者、または購入した販売店へ問い合わせてください。

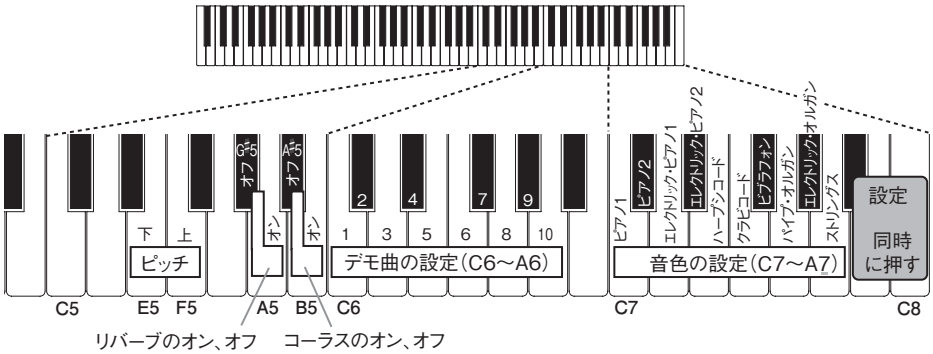
鍵盤の各機能一覧



仕様

音色	10音色: ピアノ1、ピアノ2、エレクトリック・ピアノ1、エレクトリック・ピアノ2、ハープシコード、クラビコード、ビブラフォン、パイプ・オルガン、エレクトリック・オルガン、ストリングス
音源	ステレオ・サンプリング音源
最大同時発音数	120音
エフェクト	リバーブ、コーラス
ペダル	ダンパー、ソフト(ハーフ・ペダル対応)
接続端子	ヘッドホン×2(出力端子兼用)
電源	DC12V ⊖⊂⊕ (付属ACアダプター)
外形寸法	105(W)× 62(D) × 31(H)mm
質量	130g(音源ユニットのみ)
付属品	ACアダプター、ヘッドホン

※　仕様および外装は改良のため予告なく変更することがあります。



アフターサービス

■ 保証書

本製品の保証書は、後日送付されます。
保証書には、取付完了報告書に基づき、所定事項が記入されていますので、「取付完了日」、「販売店」等の記入をご確認ください。記入がないものは無効となります。
なお、保証書は再発行致しませんので、紛失しないように大切に保管してください。

■ 保証期間

取付完了日より一年間です。

■ 保証期間中の修理

保証規定に基づいて修理いたします。詳しくは保証書をご覧ください。
本製品と共に保証書を提示の上、修理を依頼してください。

■ 保証期間経過後の修理

修理することによって性能が維持できる場合は、お客様のご要望により、有料で修理させていただきます。ただし、補修用性能部品(電子回路などのように機能維持のために必要な部品)の入手が困難な場合は、修理をお受けすることができませんのでご了承ください。また、外装部品(パネルなど)の修理、交換は、類似の代替品を使用することもありますので、あらかじめ(株)消音ピアノサービスへお問い合わせください。

■ 修理を依頼される前に

故障かな?とお思いになったら、まず取扱説明書をよくお読みのうえ、もう一度ご確認ください。
それでも異常があるときは、(株)消音ピアノサービスへお問い合わせください。

■ ご質問、ご相談について

アフターサービスや、商品のお取り扱いについて、およびピアノの長期使用につながる適正な使い方、使用後の製品の取り外し、回収、リサイクルに関するご質問、ご相談は、(株)消音ピアノサービスへお問い合わせください。

WARNING!

この英文は日本国内で購入された外国人のお客様のための注意事項です

This Product is only suitable for sale in Japan. Properly qualified service is not available for this product if purchased elsewhere. Any unauthorised modification or removal of original serial number will disqualify this product from warranty protection.

サービス窓口

コルグ消音ピアノユニット　国内サービス代行店

(株)消音ピアノサービス

フリーダイヤル 0120−614−104

受付時間:月曜〜金曜日の10:00 〜 17:00
但し、祝祭日及び毎月第1水曜日はお休みをいただいています。

●お客様相談窓口としての機能と取付認定店(取付認定技術者)様の難修理相談業務を行います。

KORG 株式会社コルグ
本社: 〒206-0812 東京都稲城市矢野口4015-2　http://www.korg.co.jp/

© 2009 KORG INC.

2402 GH *Printed in Japan*